

あわせて、私たちが大きな歴史の研究の中でさらに多くの地方史の個別の活力を発掘し、地方史の独自性と複雑性を示しながら、さらにそれによって相対的に「真実」に近い歴史発展の文脈を明らかにし、大国史観に存在する欠点を補正できればと思う。

未来を展望すれば、上述の研究は、私たちが香港という地域の「殖民性」形成に関する研究をさらに一步深めるための学術的な研究基盤を提供するものである。

第3セッションコメント

菅野 敦志（名桜大学上級准教授）

潘教授によるご報告では、「胡適檔案検索システム」および「胡適蔵書検索システム」の紹介について、一方の陳教授のご報告では、「檔案史料を用いることでいかに五四運動の新たな様相を見出せるのか」についてお話しいただいた。お二人のご報告を拝聴し、私からは「共通化」、「多元化」、「内と外」といった観点からコメントさせていただきたい。

潘報告からは、兩岸で進行中である、中国近現代史をめぐる学術協力の現状について知ることができる。中国文学／文化改革の旗手であった胡適だが、その胡適は、目下兩岸の学界において推し進められている歴史観の「共通化」、「多元化」という潮流の下、再検討が進められている民国史上の人物の一人であるといえる。この、胡適が中国現代史上において果たした役割と意義をめぐる「共通化」、「多元化」に関して、二つの質問を潘教授にお聞きしたい。

第一点は、「共通化」、「多元化」の政治的要素である。中国大陸の学者が胡適に対する過去の見方や評価を変化させていったなか、台湾の学界も同様に歴史観の「共通化」、「多元化」を進めていたといえるが、そうしたなかで、台湾の学界では胡適に対する見方にどのような変化があったのか。特に、戒嚴令解除後の台湾は3回の政権交代を経験したが、こうした状況の下で、中国大陸と協力して胡適検索システムを構築する際、何らかの困難に直面することはなかったのだろうか。

第二点は、胡適研究の将来的な可能性である。今後の胡適研究において、潘教授はとりわけどの方面においてさらなる研究が必要だとお考えだろうか。私個人の例を挙げさせていただくと、1950年代中期の台湾では、近代化を推進させる目的の下で、政府が簡体字の再公布を実施すべきか否かをめぐって「簡体字論争」が勃発した。当時、胡適はアメリカに滞在中であり、台湾を不在にしていたが、にもかかわらず、同論争では、文字／ピンイン／国語運動の改革に賛成する学者は、胡適の意見を持ち出すことで彼らの主張の正当性を証明しようとしていた。中国文化が改革されようとしていたあらゆる歴史的な節目において、胡適は常に重要な役割を演じていたといえるが、1949年にアメリカに赴き、1958年に再び帰台した、この間の胡適の学界に対する影響などについては、どれほどの研究の余地が残されているだろうか。

陳教授の刺激的な報告は、主に二つの研究成果の紹介によって構成されており、ともにFO・CO 檔案を用いることの重要性が説明されている。これらの檔案史料を用いた、五四運動の期間におけるイギリス統治下香港の再検討は、香港が経験してきた「五四」言説の複雑性を理解するうえで大きく役立つものである。そこで、今回のシンポジウムのテーマに合わせて、「内と外」をめぐる質問を陳教授にお聞きしたい。

第一点は、研究身分の「内と外」である。私が戦後台湾の文化政策と言語政策を研究し始めた際、外国人研究者という「外人」の身分であることが、政治的に敏感な議題である場合、むしろ第三者の立場でかわることを容易にさせると感じた。「内と外」をキーワードとし、香港研究に従事する際のそうした身分の「内と外」についていうならば、香港の学者と外国の学者は、どのような領域において自身の身分的な特長を発揮しつつ、研究対象の単純化を回避することができるだろうか。

第二点は、研究成果を紹介する際の「内と外」である。もし、歴史研究が現実の必要性に応じて求められるとすれば、歴史事実は常に利用される危険性に晒されているといえる。私は、日本の「辺境」とされる沖

縄のなかでも最も「辺境」地域の大学で研究している身であるので、歴史を少数の観点と立場から見るのが、大国中心主義の歴史観を無批判に受け入れないためにも有益であると常を感じている。陳教授は、すでに定説となっている歴史観を少数の「辺境」地域の観点から再検討しようとした際、特にどのようなところに重きを置かれ、檔案史料から得た研究成果を「内と外」の学者や読者に対して紹介されてこられたのだろうか。また、「内と外」から得られた反応にはどのようなものがあったのだろうか。

今年はちょうど五四運動の97周年になるが、この97という数字は、偶然にも香港が中国に返還された年と重なり、奇妙な一致である。この最後の第三セッションでの胡適、五四、香港の組み合わせは、きっと偶然のなかの必然であったのかもしれない。